

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

第3回検討会

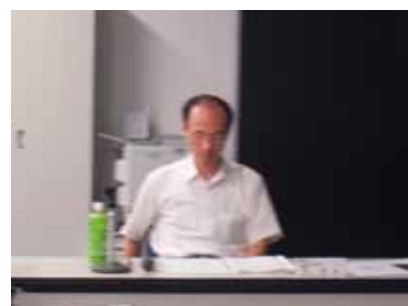
足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第3回検討会（水環境・河川物理環境）が平成19年7月13日に福井市地域交流プラザ「アオッサ」にて開催されました。

足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 岩崎福久所長からの挨拶

委員紹介



第3回検討会では、水環境、河川物理環境を担当分野とされる3人の委員で水環境、河川物理環境について検討されました。

第3回検討会出席委員

担当分野	氏 名		現 職 等
水 環 境	奥村 充司	おくむら みつし	福井工業高等専門学校環境都市工学科 准教授
	福原 輝幸	ふくはら てるゆき	福井大学大学院工学研究科 教授
河川物理環境	角 哲也	すみ てつや	京都大学大学院工学研究科 准教授

第3回検討会での審議骨子

・事務局からの報告

事務局より以下の事項が報告されました。

- ・水質
 - ・ 既往調査について
 - ・ 予測、評価項目について
 - ・ 予測、評価手法について
- ・地下水
 - ・ 既往調査について
 - ・ 予測、評価項目について
 - ・ 予測、評価手法について
- ・河川物理環境
 - ・ 既往調査について
 - ・ 予測、評価項目について
 - ・ 予測、評価手法について

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答

指摘事項	指摘内容	事務局回答
水環境 ・ 河川物理 環境	・ 濁りは生物への影響も考えられる。環境基準だけではなくこれらに配慮しデータの精査を行う必要がる。	間接影響として生物への影響も評価する。
	・ 平成 16 年の福井豪雨による濁水の状況（どの程度濁水が続いたか、濁度の低下パターン）を把握することにより足羽川ダムにおける濁水状況の参考にすることが考えられる。	濁度の連続観測データを整理する。
	・ 貯水池を介した SS 成分の変化は重要である。予測の場合、貯水池の堆砂状況により現象が異なるので注意すること。また、大規模出水は上流からの負荷が大きい、小規模出水では上流からの負荷に対する巻き上がりの負荷が無視できない。流量設定にも注意すること。	種々な流況パターンで検討を行う。
	・ 大腸菌群数が環境基準値を超過している傾向が見られるが、生活排水による影響が考えられる。また、天神橋において、BOD、COD がやや高くなっている傾向が見られるが、これは天神橋上流側の堰で滞留していることによる影響が考えられる。出水時のダムへの滞留は長くても 2 日程度である。これらについては、ダム建設による影響を検討するという観点に立った場合には検討対象とする必要はないものとする。	ダムの存在供用を検討するにあたり、富栄養化項目は検討項目とはしない。